

研究タイトル:

聖書ヘブライ語の *katal* 形について



氏名:	池田 晶 / IKEDA Akira	E-mail:	ikedaa@ube-k.ac.jp
職名:	准教授	学位:	修士(学術)、修士(言語学)
所属学会・協会:	日本言語学会、日本オリエント学会、西日本言語学会		
キーワード:	旧約聖書、言語学、談話分析		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 		

研究内容: 『サムエル記』『列王記』と『歴代誌』の並行箇所、そして出エジプト記と申命記の十戒の比較

【主な研究テーマ】

- ・ 会話文と地の文での *katal* 形の時代差と文体差の違いについて
- ・ 作者／編集者の視点と動詞と人称の関係について
- ・ 物語文の「声の多重性」について
- ・ 英訳／日本語訳聖書とヘブライ語原文の比較

【具体例】

『サムエル記』『列王記』の二書と『歴代誌』の並行箇所の比較を行い、*katal* 形の使用の変化をみる。

【方法】

1. 『歴代誌』と『サムエル記』、『列王記』の並行箇所をリスト化する。
2. 並行箇所のテキストを実際に並べてみて、加筆・欠落・修正された箇所が一目でわかるようにテキストの配置図を作成する。
3. 時代差、文体差だけでなく、著者の視点等も射程に入れて、多面的な分析を試みる。
4. 並行箇所の動詞の修正箇所だけでなく、歴代誌の著者が加筆した箇所にこそ独自の視点がみられると予想されるので、並行箇所の言語のみの分析にならないように心掛ける。

【応用】

並行箇所の比較により、聖書ヘブライ語の歴史的変遷を観察できるだけでなく、あるテキストを原資料にしながから実際のテキストを編集する際の編集者の姿勢をクリティカル・ディスコース分析の視点から観察することができ、今後ミハイル・バフチンの間テキスト性について論じることも可能です。現在は、以上に挙げた三書を用いた分析を行っていますが、著者(編集者)の視点や、ある文書を受け取る読者の観点にも興味があるので、出エジプト記と申命記のそれぞれに出てくる「十戒」の比較もしてみたいと考えています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	